

組織・グループ名	自分発見プロジェクト Study in 屋台の森
活動区分 ※いずれか1つに○をつける。	<ul style="list-style-type: none"> ● 一般助成 ○ 当事者活動支援 福祉の学び推進 ・ 地域福祉ニーズ(課題)対応 ・ 地域福祉コミュニティ構築] ● 協働事業助成 <p>[1. 福祉教育・ボランティア学習プログラム構築に係る先駆的な活動 2. 地域住民、関係機関・団体の福祉意識の醸成を基盤とし、幅広い世代の社会参加推進に係る先駆的な活動]</p>
助成事業名	

助成事業の概要〔事業の目的・取組みの概要・成果や参加者の様子・今後の展望等〕※活動の様子が分かる画像を2枚程度挿入すること。

自分発見プロジェクト Study in 屋台の森は障害児が学習やあそびの中で『心が動く』経験を増やしその心の動きを多角的に観察記録していきながら子どもたちの様々な可能性の力を発見し、本当に好きなことを探求する活動です。現在は小学生から中学生の子どもたちと月に1回横浜市栄区にある多機能型拠点郷にて色々なチャレンジを続けています。障害児と接したことのない学生ボランティアさんや子どもが大好きな元保育士さんなど様々な方から大きな学びを受けることで本当に少しずつ少しずつゆっくりと子どもたちは成長しています。



プチ屋台という名の国語、算数、理科、社会、図工のブース（屋台）を設け、学生ボランティアさんにより個別の学習指導。学習の様子や反応を記録補助係のボランティアスタッフとともに観察記録を行ないます。当日は1日1教科担当していただき子どもたち1人1人の課題進行表を用意していますので内容に沿って進めていただいています。1人5分教えたら次のお子さんが交代で回ってくるので6人教えたら休憩という流れで2クール行います。その後はみんなでビック屋台！子どもたちとペアになってダンスをしたり楽しい時間を過ごします。子どもたちが帰った後にランチミーティングで子どもたちの様子を話し合いながら『遊びの履歴書』の記入をしていただき解散という流れになっています。少しでも興味のある方は是非子どもたちに会いに来てくれると嬉しく思います。今後は参加者、開催場所を増やしたり、出張屋台をしたりと活動を広げられればと考えています。

こくご：パネルシアターの教材に表情を大きく描いて感情の違いを確認。声の表出が難しくても自分の周りで飛び交っている言葉を知る、身近な物への興味から少しずつ世界が広がっていけばいいなあと思います。



ずこう：スニップアートスタンプでハロウィーンバックを作りました。触ったり、にぎったり、やぶいたりしながら手指操作全般。季節に合わせて凧作り、雛人形作りをしたり、お手伝いができるように洗濯物の干し方など家庭科みたいなこともしています。



りか：ドライアイスを使ったシャボン玉作り。実験でハッと驚くことができるように毎回色々な簡単実験をしています。水を使った実験で大惨事になることもしばしば。大人の方が夢中になることもあり、子どもたちは、ん？何だったの？となることもあります。意外なものに反応がある発見の時間です。



さんすう：本物の時計とおもちゃの時計で時間の勉強。他にも算盤を使ったり、手作り数字カードを使いながら苦手な数字と色々な方法で向き合っています。



しゃかい：砂を使って山くずし。交代でルールを守ってゲームを楽しみながら、他にはお買い物体験でお金のやり取りや、ゴミの分別体験もしました。



ビック屋台:今年はたくさんの講師の方をお招きしました。写真は昔遊びを教えてください手作り魚釣りを楽しみました。エアロビダンス、街の大工さん、手作りスタンプ作り、リトミック、フードアナリストなど多くの学びがありました。子どもたちはプチ屋台、ビック屋台終了後に解散になります。



振り返り（ランチミーティング）:活動終了後お弁当（こちらで支給します）を食べながら子どもたちの様子を話し合い『遊びの履歴書』の観察記録を記入してもらっています。学生さんたちのコメントをもとに後日親御さんとの振り返りを行い当日の写真を加えて子どもたち1人1人の『遊びの履歴書』を完成させています。

